令和７年度 第１回小学校あり方検討委員会

と　き：令和７年９月１１日（木）１８：３０～
ところ：九重町役場３０１会議室

説明事項

１．学校再編整備計画について

２．児童生徒数の動向について

３．ここのえ学園基本計画について

学校再編整備計画について

平成21年6月　学校再編整備計画（第一次）

適正規模の基準を設定
①中学校は、町内１校を基本とする。但し、飯田中学校は通学などの課題が大きく、更に検討を行う必要がる。
②小学校は、将来計画において旧４町村に１校の配置とする。

平成24年9月　第二次学校再編整備計画

適正規模の基準を設定
①中学校は、町内１校とする。
②小学校は、将来計画において地区１校の町内４校配置とする。

学校再編整備計画について

令和元年11月　第二次学校再編整備計画に係る小学校統合計画（改定）

小学校は６校とする。
ただし、全校児童数が急激に減少したり、教育活動に支障をきたしたりすることが心配される時や校区住民や保護者が協議し統合を望む場合には、速やかに統合について協議を始める。

令和5年11月　学校再編整備計画の見直し

現時点では計画の見直しは行わない。

ただし、今後において全校児童数が急激に減少することによって、教育活動に支障をきたしたりすることが心配される新たな局面を迎えたときは、教育委員会内で随時、協議をすることとし、校区住民や保護者が協議し統合を望む場合は、学校関係者や有識者等で構成する検討委員会を設置し、全体的な協議を行う。

児童生徒数の動向について

令和7年度児童数

（令和7年5月1日現在）

学校名	学年						計
	１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生	
東飯田小学校	13	21	12	15	17	22	100
野上小学校	16	16	15	19	17	16	99
野矢小学校	1	4	1	6	5	6	23
飯田小学校	4	7	4	12	9	6	42
淮園小学校	1	5	4	3	3	5	21
南山田小学校	6	8	8	12	13	15	62
（計）	41	61	44	67	64	70	347

九重町の児童数の推移

学校名	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
東飯田小学校	123	110	103	99	101	100	96	88	81	78	66	59
野上小学校	109	102	103	103	107	99	90	82	70	65	53	43
野矢小学校	25	27	27	24	24	23	20	17	12	13	11	10
飯田小学校	51	56	55	54	49	42	43	48	39	40	38	41
淮園小学校	31	33	26	22	20	21	20	19	18	19	15	18
南山田小学校	78	76	75	76	63	62	51	40	38	35	29	31
計	417	404	389	378	364	347	320	294	258	250	212	202

児童生徒数の動向について

令和7年度生徒数

（令和7年5月1日現在）

学校名	学年			計
	１年生	２年生	３年生	
ここのえ緑陽中学校	60	73	56	189

九重町の生徒数の推移

ここのえ緑陽中学	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
1年生	70	71	78	57	71	60	70	64	67	44	61	41
2年生	71	69	72	78	57	73	60	70	64	67	44	61
3年生	59	72	69	72	78	56	73	60	70	64	67	44
計	200	212	219	207	206	189	203	194	201	175	172	146

ここのえ緑陽中学	R14	R15	R16	R17	R18	R19
1年生	43	38	31	36	23	31
2年生	41	43	38	31	36	23
3年生	61	41	43	38	31	36
計	145	122	112	105	90	90

令和７年度 第１回小学校あり方検討委員会

ここのえ学園基本計画について

九重町教育委員会

ここのえ学園基本計画とは

平成25年 ここのえ緑陽中学校開校に伴う課題や地域から出された不安

★６小学校から１中学校に入学
【課題として考えられること】
○中学校入学時点で６小学校間の様々な指導の格差が生じる恐れ
○１クラス数名～２０名程度の学校から２～３クラス７０名規模の学校に入学することへの不安

●中１ギャップの発生
●いじめ･不登校の増加

ここのえ学園基本計画とは

九重町の教育課題

➡地域全体で共通の目標・ビジョンの作成が必要

各小中学校代表者で組織する「ここのえ学園」推進委員会を設置し検討した結果、九重町の教育課題として、次の８つが示された。

（１）予想を上回る少子化のための教育課題

（２）学校に対する町民の意識の低さ

（３）低学力の状況

（４）自己肯定感の低さ

（５）いじめ・不登校問題に関わった人間関係の固定化

（６）人権教育と特別支援教育の継続性

（７）幼保小の連携・小中の接続および就学前教育充実

（８）学校支援地域本部等を活用した地域連携

ここのえ学園基本計画とは

これまでの九重町の取組の見直し

○九重町の現状にあった教育システムの構築

○町民一体となって子育てに取組む意識の共有

○幼保小の連携、小中の連携、家庭との連携

○幼少期から学校・家庭における自己肯定感を高める指導の工夫と家庭との連携

○学校・家庭・地域が一体となった仲間づくり・人間関係づくりの取組

○小中学校９年間を見通した人権教育指導計画の作成と積極的な啓発活動

○障がいを有する子どもたちが安心して過ごせる環境づくり

○就学前教育の充実と各段階におけるカリキュラムの改善

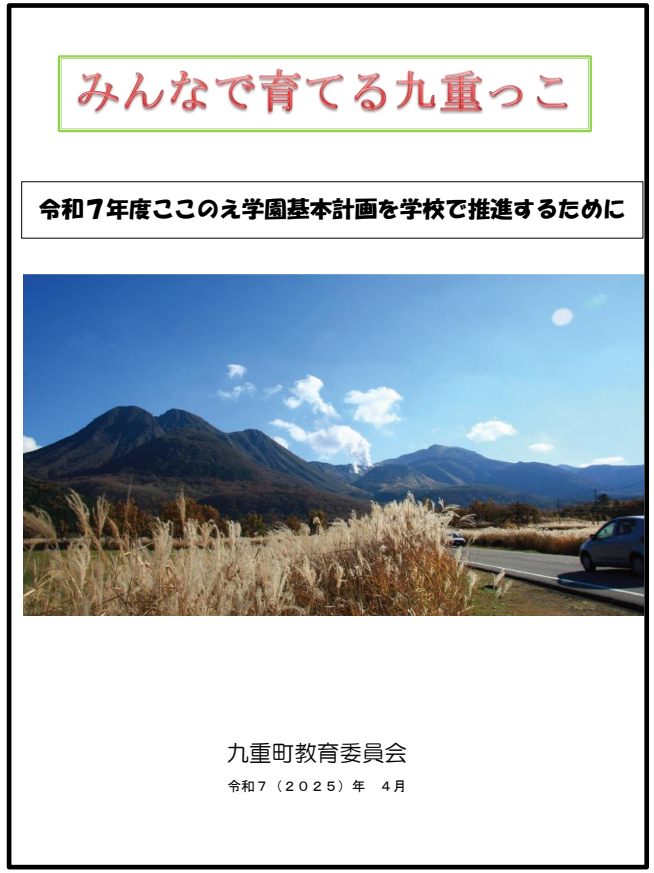
○学校と地区公民館、各種団体との連携の強化

新たに

ここのえ学園基本計画を策定（平成27年）

ここのえ学園の具体的な取組内容

みんなで育てる九重っこ
令和７年度ここのえ学園基本計画を学校で推進するために


みんなで育てる九重っこ

令和７年度ここのえ学園基本計画を学校で推進するために

九重町教育委員会

令和７（２０２５）年　４月

こちらの資料に基づき、ここのえ学園基本計画に基づく主な取組について説明をいたします。適宜、お手元の資料をご参照ください。

ここのえ学園の具体的な取組内容

「みんなで育てる九重っこ」（P.３～７）

６年生集合学習

５年生集合学習

つながり学習

・小規模校のデメリットの解消
・中１ギャップの解消
・小１プロブレムの解消

ここのえ学園の具体的な取組内容

「みんなで育てる九重っこ」（P.３～７）

各取組は担当者会を中心に運営。
先生方が主体的に運営に携わることで、
中身の濃い活動が実現できている。

〔６年生集合学習〕

◇社会見学（６月）…吉野ケ里遺跡の見学・勾玉作りなど

◇集合学習（６月）…ここのえ緑陽中学校に集合し、外国語・体育などの授業を行う。４回実施。

◇修学旅行（10月）…修学旅行の前後に集合学習を実施。

◇体験入学（２月）…中学校の教員による授業体験・授業参観・部活動紹介・台湾姉妹校との交流報告など

※集合学習時…中学校教職員の授業参観・小学校教職員の中学校参観を行い、教職員間の小中連携を図っています。

ここのえ学園の具体的な取組内容

「みんなで育てる九重っこ」（P.３～７）

各取組は担当者会を中心に運営。
先生方が主体的に運営に携わることで、中身の濃い活動が実現できている。５年生での活動が６年生集合学習成功のカギを握ります。

〔５年生集合学習〕

◇合同社会見学（９月）…ダイハツ九州・放送局・新聞社・日本製鉄九州製鉄所大分地区など

◇スポーツ鬼ごっこ（９月）…９月実施に変更。集合学習や社会見学前に親睦を深める。

◇集合学習（９・１０月）…社会見学の前後に集合学習を実施。

５・６年生集合学習では、協働的な学びや多様な考えに触れる機会を設定し、仲間づくりを行なっています。

ここのえ学園の具体的な取組内容

「みんなで育てる九重っこ」（P.３～７）

〔共通指導〕

◇学習のきまり

○授業中に机上に準備する用具
○始めと終わりのあいさつ
○発表の仕方・ルール

◇生活のきまり

○学習・休み時間・入退室・言葉づかいなど
○あいさつATM

安心・安全
不安なし！

ここのえ学園の具体的な取組内容

「みんなで育てる九重っこ」（P.３～７）

〔つながり学習〕

◇年４回の対面交流

①　６月…５年生がこども園を訪問して交流

②　９月…園児が就学予定の小学校を訪問して５年生と交流

③１１月…園児が就学予定の小学校を訪問して１年生と交流

④　２月…入学説明会の時に交流（園児・保護者）

※町外の幼稚園・こども園に通う園児については②以降の交流に案内を出しています。

※小学校の教員は、随時こども園を参観します。また、こども園職員も小学校入学後の子どもたちの様子を参観し、保・幼・小の連携を図っています。

ここのえ学園の具体的な取組内容

「みんなで育てる九重っこ」（P.８～）

〔９年間を見通した各種取組〕

令和６年度の課題
・小学校＝長座体前屈・上体起こし
・中学校＝長座体前屈・立ち幅跳び
ハンドボール投げ

◇体力向上

「体力・運動能力調査」の結果を分析し、体育専科教員・中学校体育担当教員を中心に、体力向上プランに基づく取組を推進。

□小学校…休み時間に児童会専門委員会と連携した全校遊びや、体育専科教員による専門的な指導を実施。教員の指導力向上。

□中学校…体育の時間だけでなく、部活動と連動した取組を実施。

ここのえ学園の具体的な取組内容

「みんなで育てる九重っこ」（P.８～）

〔９年間を見通した各種取組〕

◇食育指導

「ここのえ学園食育全体計画」に基づき、各校で食育を推進。
栄養教諭と連携し、発達段階に応じた栄養指導・食育を実施。

□栄養教諭を招聘し、年２回以上の栄養指導・食育授業を行う。
□もぐもぐショータイム（動画配信）で楽しく学ぶ。
➡栄養教諭が作成した動画を給食時に視聴。高評価。

ここのえ学園の具体的な取組内容

「みんなで育てる九重っこ」（P.８～）

〔９年間を見通した各種取組〕

◇人権教育・部落差別解消推進教育

小学校１年生から中学校３年生まで系統的な指導を行なう。
発達段階に応じて人権感覚を磨くとともに、知的理解を深める。

□共通教材による統一した指導＝中学校入学時の差が生まれない
□部落問題学習を社会科のカリキュラムに位置付け
□教職員研修の充実（公開授業研究会・実践交流会）

ここのえ学園の具体的な取組内容

「みんなで育てる九重っこ」（P.８～）

〔９年間を見通した各種取組〕

◇ここのえ学（総合的な学習の時間）

体験学習や地域の方との関わりを通して、ふるさと九重について学び、地域の一員としての郷土愛を育みます。

□小学校：地域の伝統文化、産業、郷土の偉人などについて学ぶ

□中学校：小学校での学びを基礎に、町全体を対象に学びを深める

➡中学校３年時に町に対して「まちづくり提言」を行う

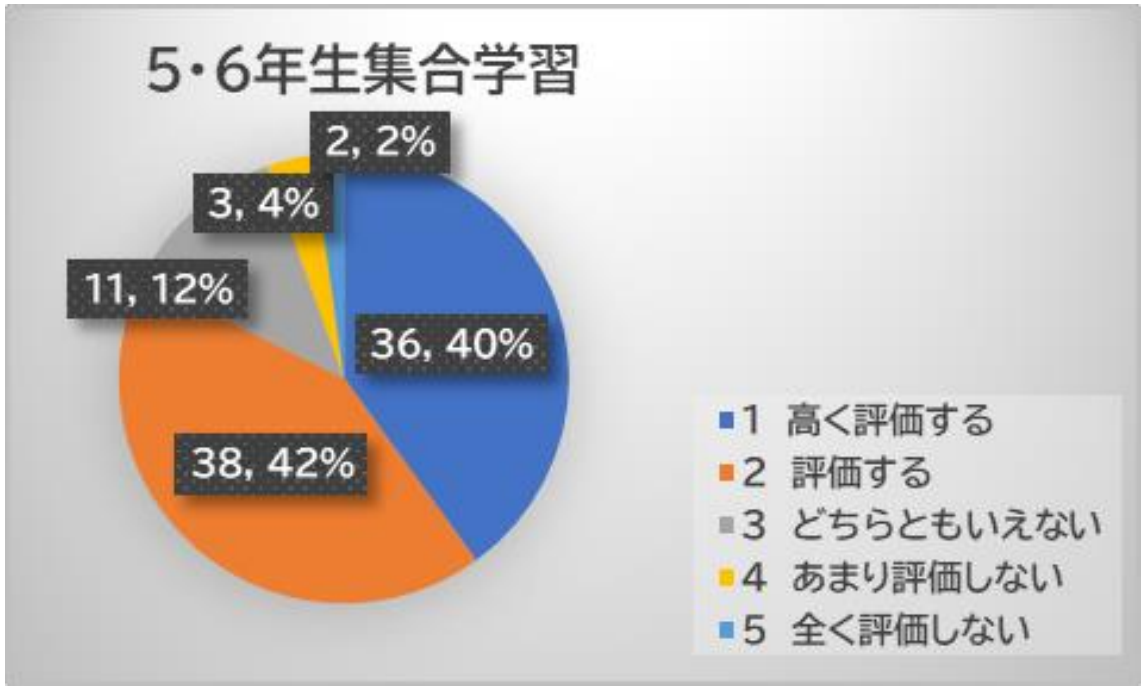
ここのえ学園以外の特徴的な取組

◇ここのえ小学校運営協議会（ＣＳ）＊６小学校合同で設置
◇台湾高雄市の中学校との姉妹校提携
　➡12月に中学生10名を姉妹校交流に派遣
◇イングリッシュ・デイ・キャンプ（小３以上対象）
　➡小中別に毎年８月に開催
◇ＣｏＲＥＦと連携した協調学習の推進
◇部落差別解消推進指導員の配置
◇６年生隣保館学習

ここのえ学園の成果と課題

教職員意識調査（R4実施）

〔５・６年生集合学習〕



肯定８２％　否定６％　中間１２％

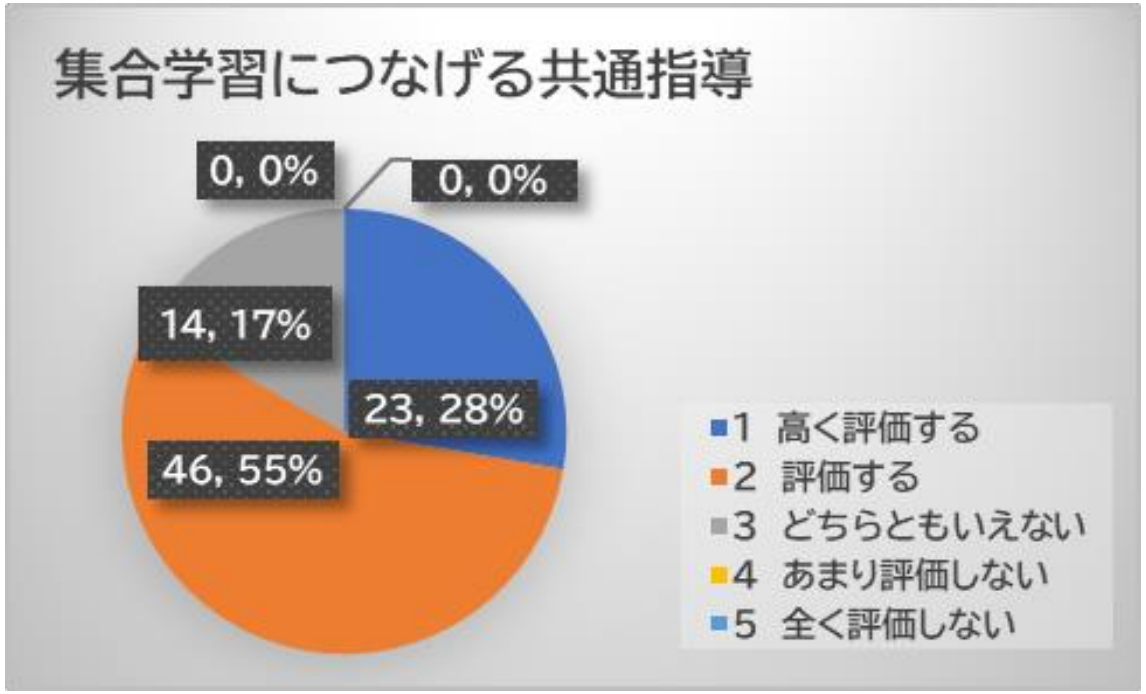
○成果
- 入学後の安心感
- 中１ギャップの緩和、解消
- 協働的グループ活動の経験
- 多様な考えに触れる機会

▲課題
- 事前打ち合わせの時間確保
- 取組の集中に対する負担感
- 児童の疲労、体調悪化
- 働き方改革の視点による改善

ここのえ学園の成果と課題

教職員意識調査（R4実施）

〔共通指導〕



肯定８３％　否定０％　中間１７％

○成果

- 安心して集合学習
- あいさつATMの徹底
- 中学校生活へのスムーズな接続

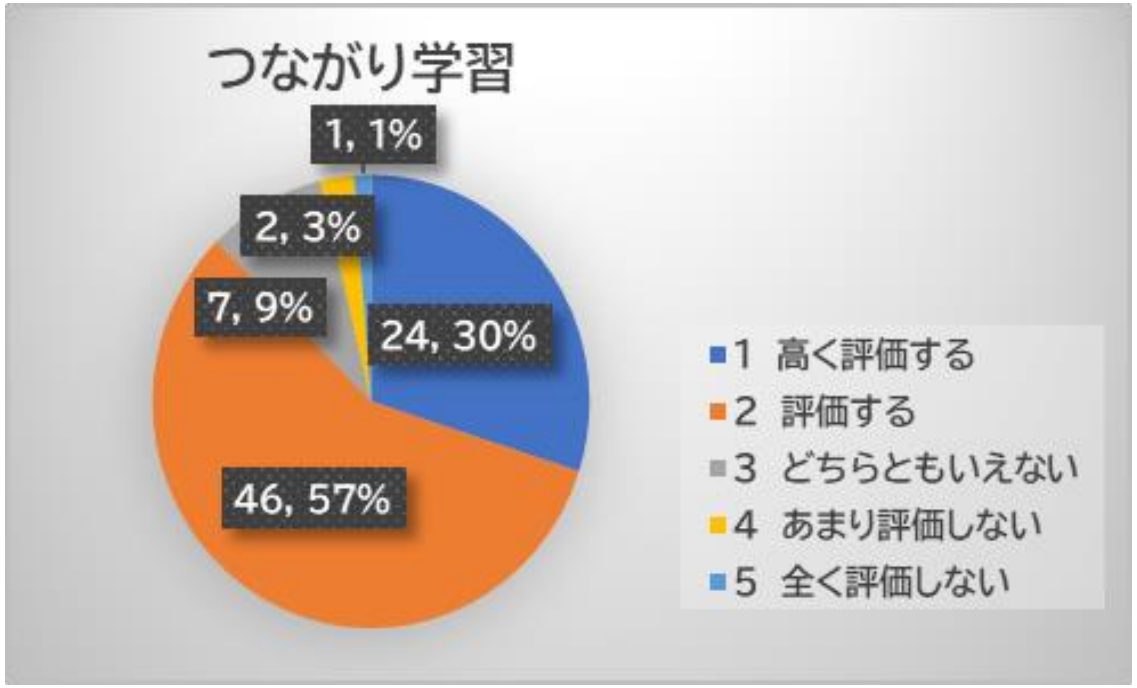
▲課題

- 導入当初の意義、目的が希薄化している
- 指導内容が不明
- 年度当初の共通理解が不十分
- 社会教育との連携

ここのえ学園の成果と課題

教職員意識調査（R4実施）

〔つながり学習〕



肯定８７％　否定４％　中間９％

○成果

- 入学後の安心感
- 小１プロブレムの軽減
- 小学生の情操面における成長
- アプローチ、スタートカリキュラムの共通理解

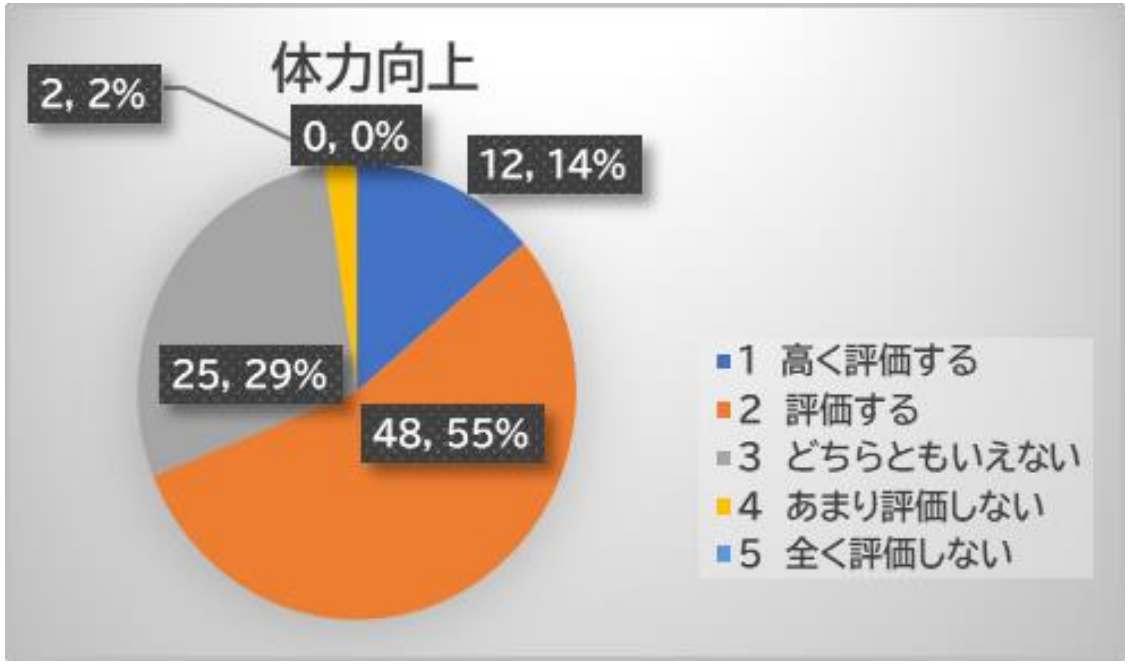
▲課題

- 情報共有の充実
- 「幼保小の架け橋プログラム」 の整備等（連携強化）
- 取組内容の周知

ここのえ学園の成果と課題

教職員意識調査（R4実施）

〔体力向上〕



肯定６９％　否定２％　中間２９％

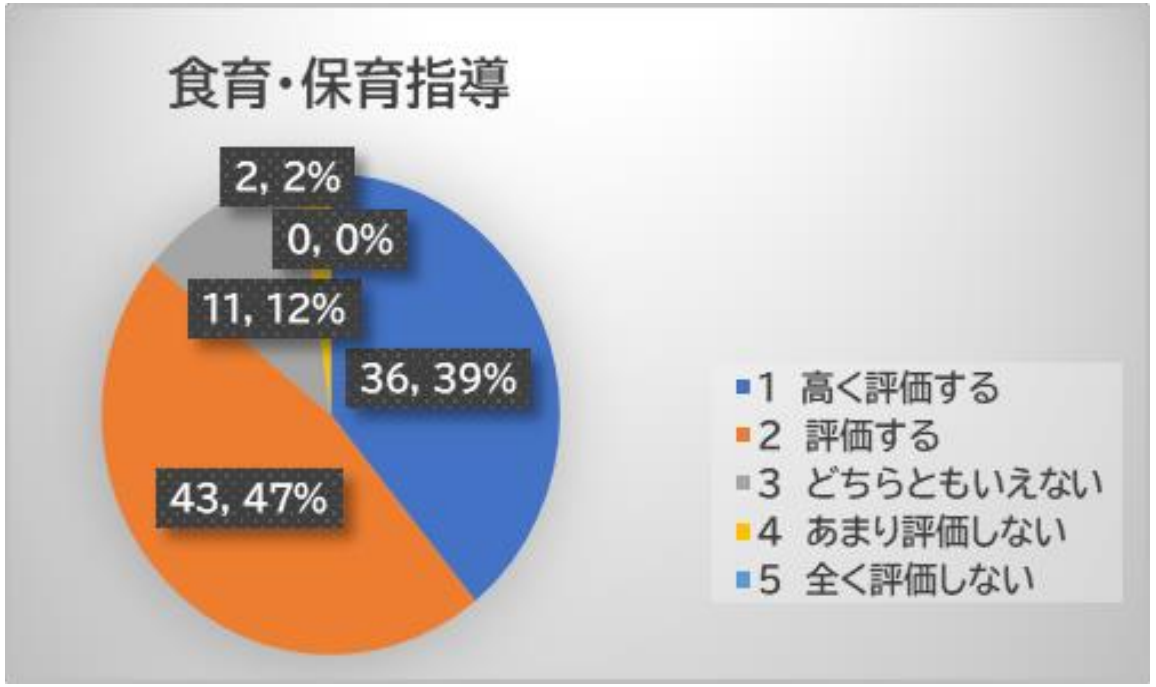
○成果
- 体育専科教員による訪問指導
- 専門性に基づく授業実践
- 若手教職員の指導力向上

▲課題
- 体育専科教員に係る負担大
- 担当任せになっている
- 校内組織の充実化

ここのえ学園の成果と課題

教職員意識調査（R4実施）

〔食育〕



肯定８６％　否定２％　中間１２％

○成果

- 栄養教諭による共通指導
- 「もぐもぐショータイム」
- 楽しみながら地産地消、栄養バランス等について学びを深める

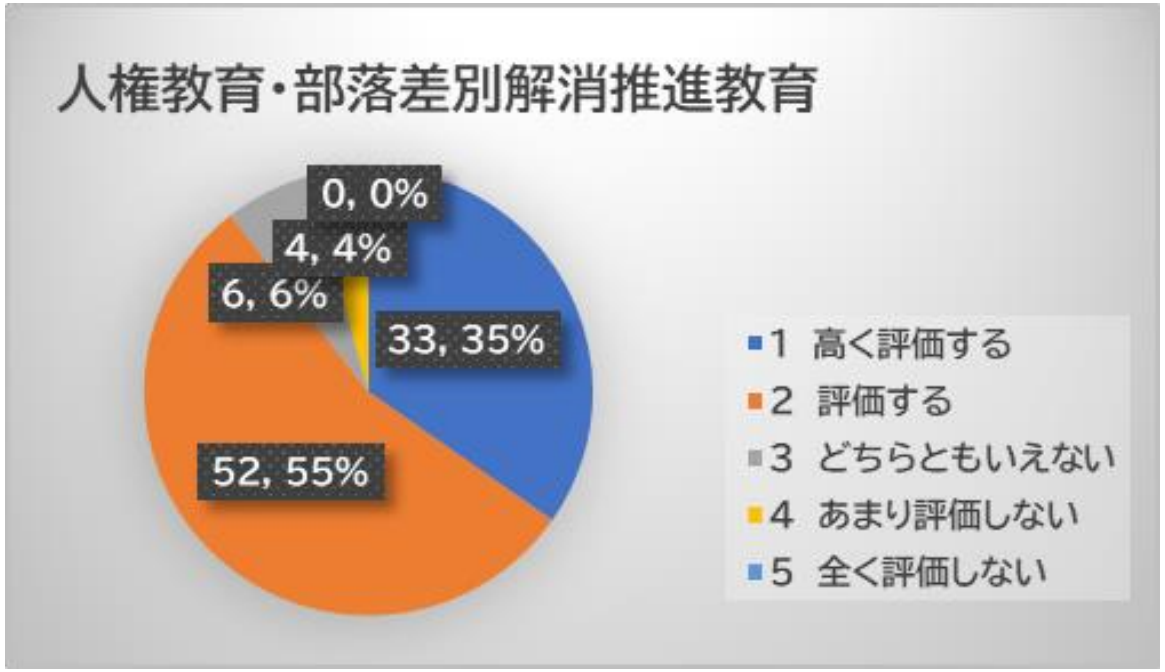
▲課題

- ダイエットによる食べ残し
- 発達段階に応じた給食指導
- 身に付けさせる資質能力の明確化
- 家庭、地域との連携

ここのえ学園の成果と課題

教職員意識調査（R4実施）

〔人権教育・部落差別解消推進教育〕



肯定９０％　否定４％　中間６％

○成果

- 共通教材による系統的指導
- 教育課程に位置付けた実施
- 実践交流等による指導力向上および人材育成
- 「いのちの授業」実践

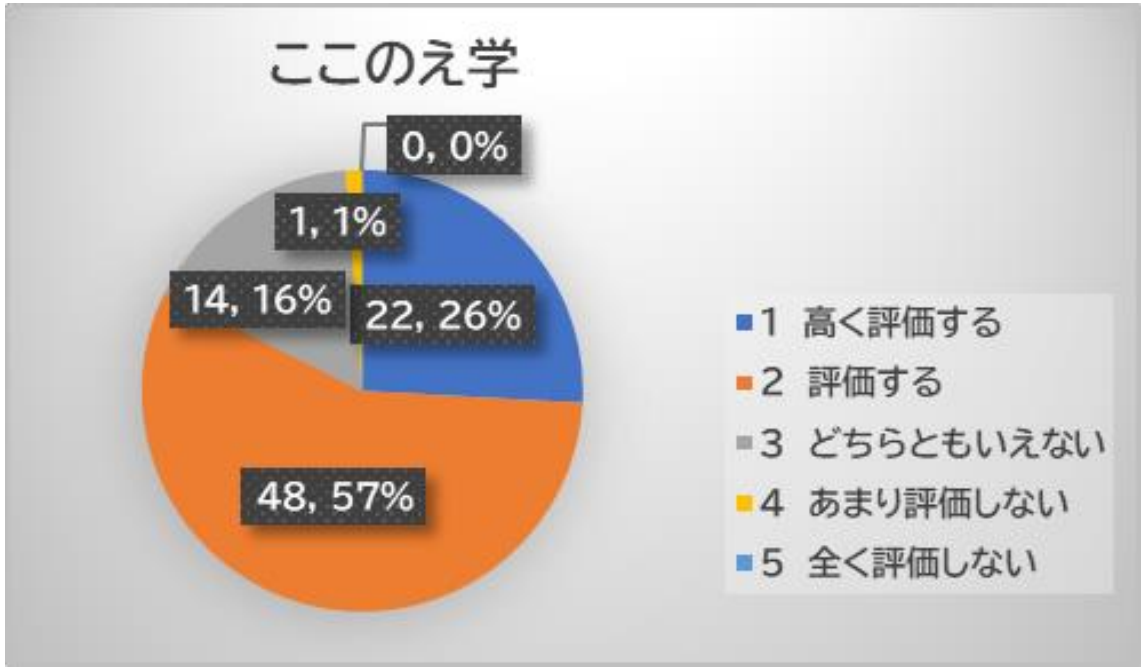
▲課題

- 共通教材の定期的な見直し
- PDCAサイクルに基づく効果的な実践へ
- 日々の授業、学校生活に人権尊重の視点を位置付ける

ここのえ学園の成果と課題

教職員意識調査（R4実施）

〔ここのえ学〕



肯定８３％　否定１％　中間１６％

○成果

- 勤務３年未満の方が高く評価
- ９年間の系統的な学び
  地域の一員、町民としての姿
- 若手や町外出身教員にとって
  内容が明確で取り組みやすい

▲課題

- 産業に限らず伝統文化についての学びを創出
- 担任以外（支援員等）へ取組内容の周知が不十分
- 地域人材との関係づくり

ここのえ学園基本計画の見直し

ここのえ学園基本計画は本格実施から10年目を迎えました

本年度は、各種取組のブラッシュアップの年！

◇各取組ごとに教職員をグループ分けし、具体的な見直し案を検討
◇令和８年度以降の取組に反映させる
◇先生方の主体的な取組を取り戻したい

学校だけでは解決が難しい課題も明らかに

ここのえ学園基本計画の見直し

学校だけでは解決が難しい課題 ⇔ 魅力ある学校づくり

魅力ある学校の姿

☆学校（児童・生徒・教職員）と地域（住民）がつながり、地域の特色を生かした豊かな体験活動ができる学校

☆地域の伝統や文化の継承に地域と協働で取り組み、地域の一員として町づくりに参画できる学校

☆児童一人ひとりが地域に愛され、みんなに育てられていると実感できる学校＝みんなで育てる九重っこ

ここのえ学園基本計画の見直し

学校だけでは解決が難しい課題 ⇔ **魅力ある学校づくり**

例えば…

①小規模校の特色

➡親子山村留学制度を町全体へ広げられないか？

②多様な関係性

➡小規模校への地域としてできるサポートは？

③学校と地域のつながり

➡働き方改革の視点から地域としてできるサポートは？